

和歌山県景観まちづくりポータルサイト構築事業(和歌山県ふるさと雇用再生特別基金活用事業)

# わかやま 景観・まちづくり新聞

県内の景観やまちづくりに関する取り組みについて情報をお届けします。  
市町村やまちづくり団体の取り組みで記事がありましたら、ご連絡ください!

## VOL.13 2012.3.28

発行：和歌山県 県土整備部  
都市住宅局 都市政策課  
〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1  
TEL：073-441-3228  
FAX：073-441-3232  
URL：http://www.pref.wakayama.lg.jp/  
prefg/080900/  
E-Mail：  
e0809001@pref.wakayama.lg.jp  
編集：NPO 法人 市民の力わかやま

### 景観・まちづくりフェスタ

3月12日〜17日にかけて、「景観・まちづくりフェスタ」が、和歌山市米屋町2のまちなか交流スペース『みんなの学校』(ブラクリ丁内)2階で開催されました。市民の力わかやまが平成22・23年度の2年間に取り組んできた「景観まちづくりポータルサイト構築事業」の最終報告会です。3月17日(土)には、和歌山大学経済学部准教授の鈴木裕範氏の講演と建築家の中西重裕氏による「郭邸」と「加田家」の上映会を開催しました。

### 講演 「2012年地域づくりの現場から」

地域資源を活かしたまちづくりを進めている例、歴史ある景観と伝統産業が息づく御坊市寺内町と湯浅町の例を紹介。  
寺内町には醸造業、和菓子、林業、薬局などの百年以上続く老舗の店舗が何軒も存在します。これらの資源を活用して中心市街地に人を呼び戻すための取り組みを紹介。湯浅町では重伝建の町に人を呼び込むために「新鮮なしらすが食べられる町」と地域の伝統的な食文化を打ち出したように、食がキーワードとなることを



「郭邸」と「加田家」の写真と簡単な解説記事が4ページにありますので、ご覧ください。

紹介。北山村や湯浅町山田地区もジビエ料理によるまちづくりを進めていることを紹介しました。その一方で過疎化と高齢化が進む地域では、地域を越えた新しいコミュニティを構築することが必要になります。その例として田辺市三川村の過疎集落と田辺市中心市街地との交流事業「三川元気夢来プロジェクト」を紹介しました。

### 上映会 「わかやまの未来に残したい明治昭和の住宅」

『わかやまワクワク探検隊 明治・大正・昭和たてもの物語』の著者として知られる建築家の中西重裕氏が、「平成22年度わかやまの底力・市民提案実施事業」として取り組まれた「郭邸」と「加田家」の動画(各約25分)を上映しました。

「郭邸」は明治10年に建設された洋館で、「加田家」は昭和初期に建設された和風建築です。いずれも登録文化財ですが、共に現在も居住されていることは驚きです。鑑賞された方からは、和歌山にこのような素晴らしい文化財が戦災をくぐり抜けて残っていることに感銘を受け、今後残して欲しいという声が多数寄せられました。

### 事業報告

市民の力わかやまのスタッフがこれまで取り組んで来た事業の数々を紹介。  
ポータルサイト「きのくに風景讃歌」  
みどころ紹介・ふるさとフォトギャラリーアーカイブ(歴史遺産・自然遺産の紹介)  
出版物「景観・まちづくり新聞」  
イベント開催

景観・まちづくり講座・お宝発見ウォーク等について、開催期間中、資料を展示しました。講演会では、今一番ホットなみどころの紹介や、皆さんが参加出来るふるさとフォトギャラリーのコーナーの紹介を行いました。

← フェスタ期間中の展示  
みんなの学校の壁面一杯に資料を貼り付けました。



フェスタ期間中の展示 →  
アーカイブのコーナーでは、和歌浦の絵はがきを時代毎に並べて、景観の変遷が分かるように展示。



「ふるさとフォトグラファー」 写真募集中

「きのくに風景讃歌」のサイトに、「ふるさとフォトグラファー」のページがあります。ふるさと和歌山県には、すばらしい景観や町並み、建造物、文化遺産などが本場に一杯！。あなたが家宝と感じたものを写真で投稿してください。毎月フリーとテーマ別にコンテストが開催されています。あなたの投稿をお待ちしています。トップページの「写真投稿」のメニューからお入りください。



「きのくに風景讃歌」  
<http://www.kinokuni-sanka.jp/>

審査員：カネナカ商店 ネット販売部門「しらすのなかむら」  
オーナー中村様 (和歌山市)

1月フリー投稿



紀の川と色のシンフォニー  
(たつきー takki0812)

1月テーマ投稿：お正月  
(おせち、初詣など)



お正月の漁港  
(花より団子 yasu)

審査員：カジユアルレストラン インターラーケン (和歌山市)

2月フリー投稿



天然記念物ビャクシンの樹  
(りゅうちゃん 1940-ra)

2月テーマ投稿：花 (春のおとずれ)



椿の花  
(きのむくま city!)

「さっぽろ雪まつり」



すすきの会場の氷像

北海道の観光産業は凄い！「さっぽろ雪まつり」の今年の観客数は、約二〇五万四千人。5年前のデータによると、49%が市民、道内からの観光客が36%、道外から13%、外国人が2%位の割合だったそうです。イベント自体は一週間ですが、制作風景を見るツアーや、雪まつりの翌日に行われる「破壊ツアー」も人気があるそうです。雪像と云えば、雪だるまの延長でどんどん積み上げていくと思いきや、枠の中に雪積みして寝かせ(固め)、削り出して作るそう、大作は、周囲に足場を組んでまるで建築現場。重機と人力で彫り出す迫力がある荒削り場面、細かい作業をする仕上げの場面等を順次HPで公表し、又、見物人客がブログやユーチューブで発信するので、祭りに向けて、自然とムードが高まってきます。

何もしなくても観光客が集まりそうな北海道ですが、自分達の町を通過点にせず、泊ってほしいと、各地の競争が盛んで、いろんな仕掛けがされています。一つは夜のイベントです。「層雲峡氷爆まつり」「支笏湖氷まつり」「阿寒湖氷上フェスティバル」「十勝川白鳥まつり彩凜華」「知床オーロラファンタジー」等。十勝川会場での、「手湯」や温かい飲み物のサービス。知床のホテルに戻った時、ロビーでふるまわれた「オニオンスープ」。冷え切った体に、本当に温かさが身にしみるおもてなしです。もう一つは、体験イベントです。知床斜里町の「流水ウォーク」(ドライスーツを着ているので、海中にも飛び込めます)。「雪原トレッキング」(スノーシューを履いて、新雪の中をウォーキング)等、NPO団体と、タイアップした企画が実を結び、人気体験メニューになっています。情報発信を密にして、連泊して下さるお客様を増やしたいとの声も聞かれました。和歌山県でも、いろんなイベントや、体験ツアーが行われていますが、ここで泊りたい！という企画が少ないうちに思っています。広い北海道に比べ、日帰り可能な場所が多いのですが、海・山・川・熊野古道・温泉など魅力たっぷりの観光王国の魅力を、ただ、見るだけではなく、体験ツアーや、夜や朝の魅力発見と、温かいおもてなしをプラスして、泊り客やリピーターが増えるように工夫しましょう。・日の出、日の入りの絶好ポイントをもっとPRする。・早朝の雲海を見る。・星空ウォッチング(和歌山県には、口径1m以上の大望遠鏡を持つ公開天文台が2カ所もあります。)・早朝の魚市場見物(魚が、頭の上を流れていくそうです)など、「泊った方が楽しめるよ」PRがいっぱいできそうです。『もし、天候が悪かったら?』北海道では、「霧の摩周湖」と言われるように、見えない日が多いことで、かえって箔が付く(?)ことも。休憩所の巨大スクリーンで、四季折々のきれいな摩周湖を、うっとり眺めながら「又、今度来ようね」で済みます。観光砕氷船に乗って、流水が見られなかったら、ただの「海上遊覧」になります。こちらも、来年こそは！とリピーターが多いようです。ただ、それだけが目的の旅行ではなく、何か所も観光地を回ることに、どこかで、満足を得られるツアー設定が考慮されている点も見習いたいところです。



十勝川白鳥祭り 手湯



### 郭邸と加田家の紹介

「景観・まちづくりフェスタ」で上映された、和歌山市の登録有形文化財・郭邸と加田家を紹介します。(当日配布された中西重裕氏の資料による)

#### 郭邸

郭家は明国の名医玄関が明暦年間(1655~58)に帰化して、長崎で蘭・漢医となったことより始まる。第2代目郭氏は紀州徳川光貞に招聘され江戸詰医、紀州藩医となる。以来、代々医業を継ぎ、藩医を務める。廃藩置県後は和歌山の医学に貢献し、明治7年に第5代郭百甫氏が、和歌山市7番丁に和歌山で最初の医学校兼医院を開設し、医師の育成に努めた。

郭百甫氏は明治10年に自宅に診療所を開設し、洋館を建設。ペランダから朝日を拝めることから「迎陽閣」と称された。設計者は定かではないが、洋館の建築に際して、神戸から大工が招聘され、地元の大工が手伝ったと伝えられている。



所在地 和歌山市今福  
完成年 明治10年(1887年)  
設計/施行 不詳  
構造 木造2階建一部平屋、寄棟造、浅瓦葺

#### 加田家

加田家住宅は、和歌山城の南、三年坂の通りを南に入った藪ノ丁に位置する。西を正面としたほぼ長方形の敷地で、道路に沿って青石の塀が続き、ほぼ中央に表門を構えている。雁行型の主屋と東南の庭、東に茶室や腰掛待合、露地門を配置するなど、茶の湯を楽しむための施設が整えられている。主屋の脇には土蔵を置き、敷地東北隅には屋敷神を祀る社と鳥居を建てている。これらの建物は、昭和初期に当主加田芳彦(現当主の父親)が母親はる(現当主の祖母)の古稀を祝して建てたものであり、昭和初期における別邸建築の構成をほぼそのまま伝えている点で貴重である。



所在地 和歌山市藪ノ丁  
完成年 主屋：昭和4年  
土蔵・茶室・鳥居：昭和6年  
設計者：山崎義道 施行者：谷口亀三郎(主屋)  
構造：木造平屋 瓦葺一部板葺

### 第6回お宝発見ウォーク&野外講座

#### 万葉故地 糸我・白崎・白神



得生寺に集合したウォーク参加者  
万葉衣装で参加するスタッフも雰囲気作りに一役。

語り部の方や万葉研究の先生方による解説と万葉歌の披露があり、参加者を楽しませてくれました。施無畏寺では湯浅町の教育委員会教育長・垣内貞氏から明恵上人が修行されたゆかりの地についてのお話がありました。栖原海岸からは、宿泊組はバスで宿泊地の白崎青少年の家に向かい、途中広村の堤防と耐久舎の見学をしました。

翌日は、風が強く船旅は中止となり、白崎海洋公園を見学した後は、白崎万葉公園の有名な歌碑

白崎は、幸くあり待て 大船に  
ま梶し、貫き またかへり見む

この前で解説と歌の披露がされました。その後バスで湯浅の町並みを見学した後、12時に湯浅駅で皆さん元気に解散しました。

解説をされた先生方は、近畿大学文芸学部教授・村瀬憲夫氏、万葉植物研究家の山元晃氏と馬場吉久氏でした。

ウォークと野外講座の様子は、「わかやまインターネット市民塾」へ近々アップしますので、ご覧ください。



白崎万葉公園で万葉歌碑の解説  
「わかやまインターネット市民塾」  
<http://wakayama.shiminjuku.jp/>

「景観・まちづくり新聞」のバックナンバーは「きのくに風景讃歌」のサイトからダウンロードできます。

「きのくに風景讃歌」

<http://www.kinokuni-sanka.jp/>



#### NPO 法人 市民の力わかやま

〒640-8215 和歌山市橋丁21番地N2ビル3F

TEL/FAX 073-428-2688

URL <http://shimin.or.jp/>

e-mail [info@shimin.or.jp](mailto:info@shimin.or.jp)

受付時間 月～金 9:30～16:30 ※土日祝休み